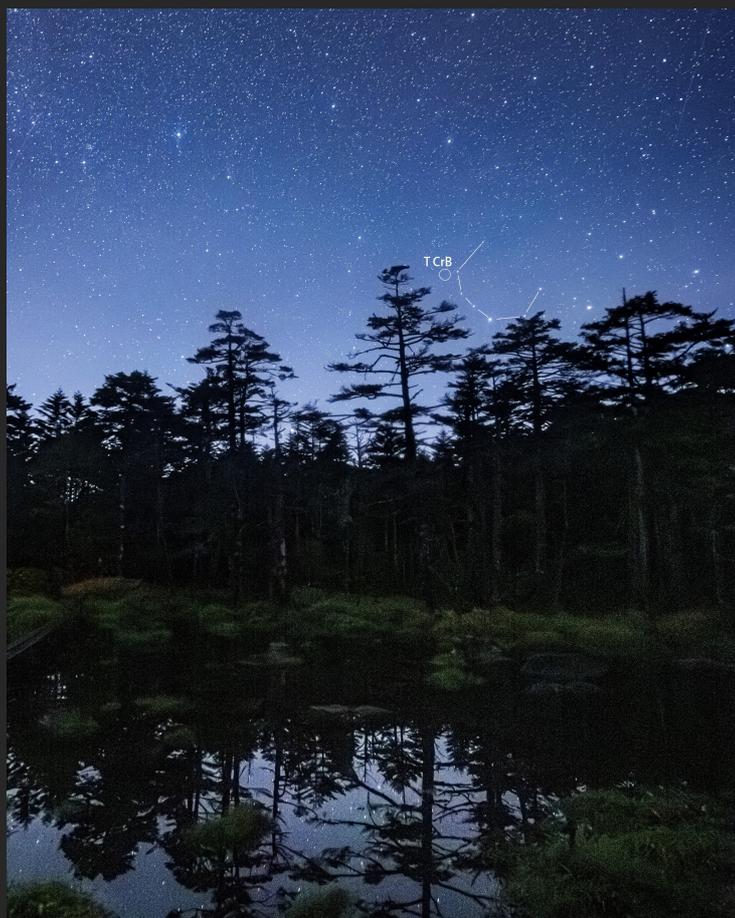


# 天文教育

2024

7

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy  
(PJSEPA)*



<特集> 関東支部会

<投稿> Stellarium 活用のススメ (4) /スマート望遠鏡 Seestar  
の活用 (2) /Public astronomical observatories in Japan/  
Seestar S50 の画像を天の北極に向ける

<報告> 若手天文教育普及 WG (わか天) の活動 I・II /アフリカ  
大陸とアストロツーリズム

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします）。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加も可）。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **裏表紙の写真**：タイトルと400字以内のコメントとともにご投稿ください（写真のみでも構いません）
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

- ・ **締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月（発行の前月）15日です。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。
- ・ 本誌に掲載された記事（上記1~6および7の一部）は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### 生涯に一度、かんむり座 T 星の爆発

針葉樹の森に沈む「かんむり座 (CrB)」と「T CrB (○の位置)」  
2024年6月19日 02h57m, Canon EOS R5, AF-S NIKKOR  
14-24mm f/2.8G ED (20mm), ISO10000, 露出 20 sec,  
撮影地: 麦草峠 (長野県佐久穂町)、撮影者: 大西浩次

いま、多くの人々が待っている天体現象がある。かんむり座 T 星 (T CrB) の新星爆発だ。T CrB は、ふだん約 10 等級の暗い変光星ですが、約 80 年に 1 回、かんむり座で最も明るいアルフェッカと同じ約 2 等級まで増光する。わずか 1 日足らずで急増光し、約 2 日で 1 等級のペースで減光してゆく。新星爆発を起こす天体は、白色矮星と赤色巨星の近接連星系だ。大きく膨らんだ赤色巨星から白色矮星にガスが流入し、ある限界を越えると新星爆発を起こすと言われている。普通の新星は、数万年に一度のペースですが、特にガスの流れ込みが大きな系では、その周期は短く、再帰新星などと呼ばれている。その中で、最も明るくなるのが T CrB だ。過去に 1866 年と 1946 年の新星爆発が知られている。特に、1946 年の増光では、戦後直後の市民観

測者が数多くの観測に貢献をしている。日本での第 1 発見者は斎藤馨児 (2 月 10 日午前 2 時 20 分)、第 2 発見者は吉原正廣 (同日午前 5 時)、そして恒岡美和と 3 人の独立発見者がいた。戦前から続く日本の変光星観測者の情熱が伝わってくる\*。ところで、「星の来る夜」でも有名な観測者 L.C.ペルチャーは、当時分かっていなかった再帰新星のモニター観測を 1920 年より始めており、この 1946 年の爆発の 1 年前からゆっくり減光する光度変化を捉えていました。そして、2023 年 3 月頃より同様のゆっくりした減光が始まったということで、2024 年 5 月前後に爆発するだろうとアラートが出ています。まさに、世界中で、爆発直後の様子を見ようと待機しているのです。もし、日本の夕刻に爆発すると、世界で最初の目撃者になるかもしれません。実際に観測してみませんか？

\*著者「たかのひろ」氏より直接頂いた「昭和天文クロニクル」(文芸社, 2023) には、祖父吉原正廣氏の過ごした昭和初期の天体観測に関わる人々の様子が生き生き描かれている。戦前・戦中・戦後の大変な時代の執念とも言えるような観測者(「市民科学」者)の思いが伝わってくる。